

# グローバル企業の工場に、 知的障害者の職場

職場  
ルポ

—NTNテクニカルサービス株式会社岡山事業所  
「夢工房」—



(文) 清原れい子 (写真) 小山博孝

取材先データ

NTNテクニカルサービス株式会社岡山事業所「夢工房」

〒705-8510 岡山県備前市畠田500-1 NTN(株)岡山製作所内  
TEL 0869-66-7110 FAX 0869-66-7477

keyword: 知的障害、製造業、障害理解、職域拡大、勤務時間の配慮、職場環境の整備



## POINT

## WORKSHOP REPORT

- ① さまざまな治具を工夫、作業を「見える化」
- ② 指導とサポートで、全員が同じ作業ができるように成長
- ③ 余暇活動を充実し、ストレスなく働ける職場をつくる



苫田所長

### 知的障害者が主役の 職場をつくる

岡山市の東、備前焼で知られる備前市に入るとすぐ、JR赤穂線沿いに平屋建ての大きな工場が見えてくる。今回の訪問先は、NTN株式会社岡山製作所のなかにあるNTNテクニカルサービス株式会社岡山事業所「夢工房」だ。

1918（大正7）年創業のNTNは、ベアリング（軸受）を中心とした精密機械部品メーカーとして発展してきた。従業員は約5千人。私たちの目に直接触れることはないが、ベアリング、等速ジョイント分野のリーディング・サプライヤーで、創業地の桑名製作所（三重県）のほか、岡山製作所、磐田製作所（静岡県）、長野製作所など、国内に24カ所の生産拠点と4カ所の研究開発拠点、33カ所の販売拠点を

があり、海外でもグローバルなネットワークを構築している。

企業理念は「新しい技術の創造と新商品の開発を通じて、国際社会に貢献する」。ベアリングの生産をおおして環境や社会に役立つ企業でありたいという、軸受開発でつちかかった精密加工技術や独自のノウハウをいかした製品は、人工衛星から航空機、鉄道車両、建設機械、情報機器、風力発電などさまざまな産業で使われ、海外での販売が6割を占める。

岡山製作所は1971（昭和46）年に設立され、従業員数約1200人。エンジンの回転力を車軸に伝える等速ジョイントやテーパーローラベアリング、ハブベアリングなど自動車向け製品を24時間操業で生産する。

NTNテクニカルサービスは、NTNの100%子会社として、1987年に本社、桑名、岡山、磐田、長野の各製作所内に設立された。従業員は860人。テクニカルサポート、精密加工、ウエルサービス、精密商品のグループがあり、岡山事業所では、81人が働いている。所長の苫田さんは、NTN岡山製作所を主体にアメリカ勤務などを経て、約2年半前に現職に就いた。

「当社はNTNのOBを中心としたベテランが、長年の経験でつちかかった知識・技能・技術を従業員に伝承し、知恵と工夫とスピード感を持ってNTNグループの二

ーズに因應するため、また協力会社や地域社会に貢献するために設立されました。経験豊富な人材集団です」

2006（平成18）年には、「岡山事業所ウエルサービスグループ」のなかに知的障害者が働く「夢工房」が開設された。「夢工房」はその後、桑名製作所と磐田製作所にもつくられている。

「NTNでは従来から障害者雇用をしてきましたが、どちらかというと健常者主体の職場に少数の障害者が入るという形で、障害者の方の働きがという視点で考えると配慮が足りない状況でした。障害者の経済的自立を支援し、社会に貢献していくという方針から、障害者雇用を推進していくという機運が高まり、2004年に知的障害者「夢工房」の設立に向け事業を開始、2006年には知的障害者が主役で働ける職場として、『夢工房』をつくりました。当時の社長の考えでした」

岡山製作所が、工場の一角に作業スペースと仕事を提供。サポート社員2人を配置して、重度の知的障害者を1人雇用し、業務を開始した。NTNとNTNテクニカルサービスは別会社だが、どちらも法定雇用率を達成している。

### 治具を工夫、 作業は「見える化」

岡山製作所の正門を入ると、一番手前の建物のなかに「夢工房」がある。知的障



NTN 岡山製作所内にある「夢工房」



工夫で生まれたいろいろな治具

国内の自動車メーカーには、ビニールの袋で覆った容器にベアリングを入れて出荷する。市販や輸出入は段ボール箱に詰める。輸出入の箱折りは、折るだけの箱と、箱をテープで留め、なかに部材用の仕切りを入れる、の2パターンがある。

「バーコードのラベル貼りは、立った状態で下を向いて作業を続けると首が痛くなるので、座って目の前の高さでできるように、角度とサイズを変えられる治具を会社につくってもらいました。作業がスムーズにできるようないろいろな治具をつくり、大事なところに時間をかけて、無駄な動きを省くように工夫しています。競

害者6人が、容器の袋かけ、箱折り・箱組立て、バーコードのラベル貼り、ダイヤルゲージの分解洗浄を行っている。障害者職業生活相談員の資格を持つ今村さんが、2006年の開設時からサポートにあたり、だれもがどの作業もできるようにと指導してきた。

「忙しいときは、その作業が得意な人が担当して、余裕があるときは得意ではない人に覚えてもらうようにして、全員が同じ仕事ができるようになってきました。1人しかその仕事ができないと、その人が休むと困ります。金曜日には土日の分もつくらなければならぬので、以前は『休まないでください』といっていました。人数が増えたいまは、つくり置きができるようになりしました」

「負けたくない」と作業が早くなる人もいて、みんなが少しずつ成長しています」

勤務時間は、8時20分から16時45分まで（障害者は午前・午後各10分の水分休憩あり）。出勤すると、「今日の作業指示表」を確認して作業を始める。どのような詰め方・積み方をするのか、どの職場に運ぶかなど、作業ごとに色別の札にして、1つの作業が終わったら、自分で札をひっくり返し、作業開始・作業終了とその間の段取りの時間を記入していく。「どんな作業をすればよいのかが一目でわかるように『見える化』をしています。みんなが同じ場所で仕事をするので、『あの人は何で仕事ができないのか』、『体調はどうなのか』もわかります。その人その人のレベルにあった支援をして、少しずつ仕事を広げていくようにしています」



山井係長とともに指導にあたる今村さん

パレットに積み上げた箱をバンドで固定するときは、2人で力をあわせる。

「このなかで仕事をするだけではなく、自分たちでハンドリフトを使って、自分たちがつくった製品を現場に運んで、次の製品を持つてくるようにしました。現場に運ぶのは、あいさつなどがキチンとできる人に頼んでいます」

最近、製品の測定に使うダイヤルゲージの分解洗浄の仕事も始めた。

「ダイヤルゲージの細かい部品を全部分解して、洗浄します。洗浄後の組立ては健常者が隣で行い、作動確認、精度確認をしています」

所長の苦田さんは、ほとんど毎日顔を

出ず。

「ほぼ毎日、巡視しています。『ドアの高さが少し低いので、出入りするときに当たりそう』と話すと、すぐ高く直してく



山井係長

## WORKSHOP REPORT



段ボール箱を次々に組み立て、慎重に運搬する松浦さん



ダンボール箱の組立て作業をする鳥羽さん。夢工房の入社一期生だ

### 自分たちの給料は自分たちで稼ぐ

れるなど、仕事がいやらしいようにと、岡山製作所は非常に協力的です。障害者雇用はNTNトップの理解があるのが大きいですね。トップが代わっても、全員が異動するわけではないので、残っている人たちにきちんと引き継いでいけば心配ないと思います」

定着はよく、10年間で退職者は1人。ウエルサービス部夢工房係長の山井やまいさんは、NTN岡山製作所の現場係長を定年退職して、5年前に異動してきた。

「知的障害があっても、仕事内容を理解すれば、力を発揮し、スピードを持続できます。その人にあつた支援、ストレスを与

えないような指導・支援が必要です。主役として働ける環境を整える、障害者個人の苦手とする部分を把握する、不足している能力を補う補助具をつくる、健常者の作業方法を押しつけないなどを配慮しています」

当初は、会社の倒産などで退職した人たちを、ハローワークで中途採用してきたが、2年前から新卒採用を始めた。

「採用は、3週間の実習を2回実施し、可否を決定します。働きたいという本人の意欲が見えること、家庭で支援していただけることが大切です。就職できたからといって、会社任せでは就労を継続していくのはむずかしい。仕事が軌道に乗り、働き続けるには家庭の支援が欠かせません。そのあたりを見えています。『自分の給料は自分で稼ごう』という

のが、夢工房の理念。待遇は特定社員※1と同じで、最低賃金保証（機械加工業）プラス賞与です」

職場の掲示板には、さまざまに表彰状と、スペシャルオリンピックス※2、乗馬、出版など、それぞれが仕事外で活躍する写真が貼り出している。

特別支援学校を卒業後、設立と同時に入社した鳥羽さんは、マラソンや長距離が得意。スペシャルオリンピックスの世

※1：自社が設けた制度で採用している社員

※2：スポーツを通じて、知的発達障害のある人の自立や社会参加を旨とする活動

# 職場 ルポ



池田さんと、池田自費出版した小説『学園へ行こう!』



作業箱にナイロン袋をかける池田さん

界プレ大会にも、複数の陸上種目で出場した。乗馬の馬術競技で活躍する松浦さんとともにグループホームに入居し、自立に向けて頑張っている。「箱折りを手早く進めているいまの仕事ぶりからは想像できないと思いますが、私が自閉症について何も知らなかったため、最初はたいへんでした。10時と15時の水分休憩に、トイレに入ったまま10分経っても出てこない。どんなストレスがかかっているのかをひたすら観察して、作業を数量化して見直しをつけ、指示をきちんと出すようにしたら、改善されました」と今村さんが振り返る。



勤続4年の池田さんは、小説『学園へ行こう!』を自費出版した。「前の会社は人間関係で退社しましたが、ここは黙々と仕事ができるのがいいと思います。容器に袋をかぶせる仕事がいちばん得意です。物語を書くのが趣味で、文章を書いていると登場人物が浮かんでくるのが摩訶不思議というか。本になったのを見て、すごいと思いました」いまは書いていないという池田さん、「将来の夢は、結婚することです」。

松原さんは、ハローワークの紹介で就職し、勤続10年になる。市販品の箱にバーコードを貼る作業が早い。「バーコード貼りが得意で、ほかの人に



製品ケースにラベルを手際よく貼る松原さん

は負けないです。正確に貼ることとスピードに気をつけています。休みの日は家で映画鑑賞をしたり、買い物をしたりしています。レシピの本を見ながら、料理もつくつめなどをよくつくります」今村さんとは、よくおしゃべりをするという。「仕事では厳しいところもありますが、仕事以外は優しい。これからもずっと働きたいです」。松原さんの夢は、「いつか1人暮らしをしてみたい」。今村さんは、それぞれの余暇にも気を配っている。「会社で働いたお金を自分で使う。余暇



「夢工房」の新しい仕事となったダイヤルゲージの分解、洗淨に取り組む鈴木さん



袋がけ作業をする新人の岡崎さん

活動が充実して、仕事も成長していくことが大事だと思っています」

## 経済的な自立と雇用拡大を目指す

係長の山井さんは、前職で長期休業の部下2人の復職に心した経験がある。知的障害者と働いて感じていることは、

「初めは重度の人1人を雇用しましたが、特性を活かした形で働ける仕組みをつくってきました。苦労したことが、いま生きていると思います。『7時間35分、ストレスなく働く』をキーワードに、『仕事は楽しい』と思える職場にしたいと考えています。個人的に悩ましく思っていることは、障害者の働く職場がなかなか増えていかない現実です。工夫をすると、障害の程度に応じて働けることがわかりましたの

で、働く場を広められればと思います」

今村さんは、障害者と楽しみながら仕事をしたいと考えている。

「この子たちが自立するのが、私の夢です。私たちがいなくなっても、仕事をずっと続けられるようにしておきたいと思っています」

所長の苦田さんが、知的障害者と接して気づいたこととして、

「いったん仕事を覚えると、真面目に勤勉に作業します。一方で、喜怒哀楽もあり、日々変化していますから、サポートが重要です。健常者と知的障害者の違いはどこにあるのか？と感じています。障害者から多くを学び、それを一般従業員へも活用できると思っています」

障害者たちが自立できる職場にしていきたいという。

「自分たちの給料分を稼げるようにしておけば、プライドを持って生きていきます。年をとってもずっと働いてもらいたいです。いまより陣容を大きくして、若い人たちを入れていきたいですね。また、現場に出られる人は現場に出して、スタッフが巡回すれば、仕事は広がり、夢が広がっていくのではないかと思います。仕事を広げ、新しい仕事を探し、大勢の人たちが働けるようにするのが、私の仕事なのかなと思います。もう1つは、80人の従業員のなかには技術屋さんがいますので、みんなで知恵を絞って作業がしやすいように協力していこうと思っています」

また、経営をになう立場で考えていることは、

「自分たちで稼いでいるのだからもっと仕事をください、障害者をもっと雇用してください」と、世の中に堂々といえるような企業になりたいですね。今後は、障害者の経済的自立を積極的に支援して、夢工房を経済的に自立させ、障害者の業務・雇用拡大を目指したいと思っています。障害者雇用の職場だから効率や品質が悪いでは、企業に認知される職場にはなりません。部門赤字は出さない工夫をして、『売上高を障害者雇用に係る直接費用以上に確保する』という目標が安定してできるようにしていきたいです」

「夢工房」。その名のとおり夢のある飛躍を、これからも期待したい。